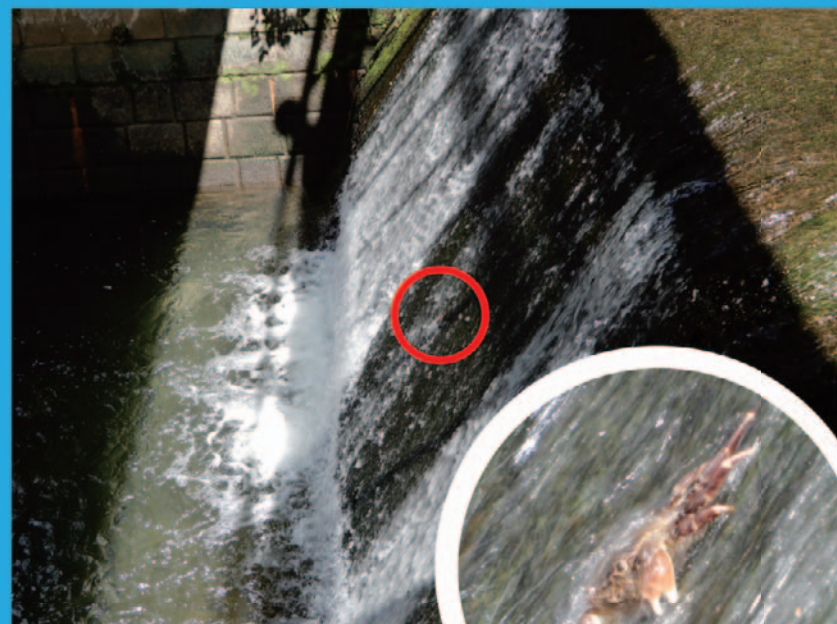


中・下流域の生物②



落差工とモクズガニ



高低差約3mの落差工だけど、僕らモクズガニは、頑張って登って行くよ。



外来生物



生態系被害
防止外来種



東山動植物園
にて展示あり

ナマズ



純淡水魚 動物食性 夜行性で、昼間は物陰に潜む。堀川には60cm超も生息する。名古屋市2015準滅危惧

ヒメダカ



純淡水魚 プランクトン等の雑食性。メダカを鑑賞用に品種改良されたものが、放流され定着した。

ボラ



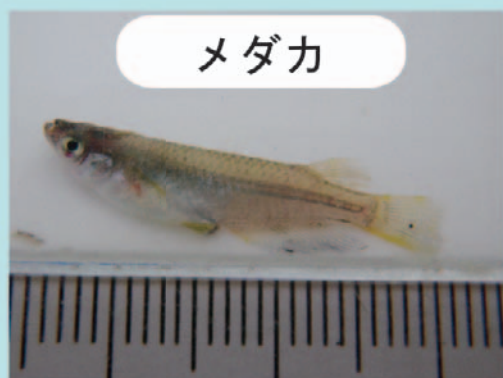
汽水・海水魚 付着藻類等の雑食性 海で孵化した仔魚は、春には中・下流の水面近くに群れている。

マハゼ



汽水・海水魚 藻類・底生生物を食べる雑食性。堀川では春～夏に中・下流域で過ごし、秋には海に移る。

メダカ



純淡水魚 プランクトン等の雑食性。塩分・汚濁等に比較的強いが、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

モツゴ



純淡水魚 付着藻類・底生生物を食べる雑食性。雄は子煩悩で、卵が孵化するまで保護する性質をもつ。

～黒い堤防～

潮汐の影響で刻々と水位が変化する堀川の中・下流域の堤防は、干潮時などに、水面付近の堤防が黒く汚れているように見えます。

これは、『藻』や『微生物やその死骸』、『生活排水に含まれるもの』が付着しているもので、そこに暮らすカニや魚など生物の食糧にもなっています。



納屋橋周辺の堤防



冬 青々とする藻は、水鳥のエサにもなる



付着した藻などを食べるベンケイガニ



浮遊粒子の顕微鏡写真